

DEBUT 首長

千葉県勝浦市長 山口 和彦氏

駐車場不足解消し観光客増やす



やまぐち・かずひこ 1951年千葉県勝浦市生まれ。玉川大学文学部卒業。体育教師として35年の教員生活を送る。11年2月の市長選に初当選。実父は昭和42年から32年間、勝浦市長を務めた。妻は元教員、長男夫婦も教員と教員一家。趣味は野草栽培。59歳。

千葉県勝浦市 太平洋に臨む房総半島東部の漁業の町。人口は2万1千人を切り首都圏の市では最も少ないが、漁獲量では千葉県内第2位。400年以上の歴史を持つ朝市や恒例の「カツオまつり」が有名。近年は真っ赤なラー油でいためた野菜や肉が乗る「タンタンメン」も人気。

——人口2万人割れが目前に迫っている。対策は

勝浦市は海があり、山があり風光明媚な自然に恵まれている。主力の漁業だけでなく、観光が町を支える大きな柱だ。まずは観光客を増やし、次いで定住者を増やすことで人口減に歯止めをかけたい。そのためには、交通の便を改善しなければならない。JR東日本には外房線の早期複線化実現を、県には来年度一部開通予定の圏央道につながるバイパスの早期完成を要望していく。

街中の駐車場不足も問題だ。イベントの際は隣町に車を止めてもらいバスでピストン輸送しているのが現状で、観光客が街中で買い物を楽しむ時間的な余裕が限られる。中心部では空き

地が増えているので、これを市が借り上げるなど駐車場不足解消に取り組みたい。

この時代、企業や工場の誘致で地域を活性化するのは難しいだろう。交通インフラの整備によって観光客を増やし、千葉市などに通勤する定住者の増加につなげたいと考えている。

——高齢化が目立つが、若者呼び込む対策は

まずは、子育て支援をしっかりやりたい。市内には7カ所に保育所があるが、今後建て替えや再編を進める中で土曜・日曜日の開所や時間延長に取り組みたい。医療費無料化の対象を現行の小学6年生までから中学3年生までに延長し、子宮頸がんワクチンの予防接種も市の全額補助にしたい。「ひとづくり」は元気なまちづくりの根幹だ。当市内には国際武道大学がある。学生に指導員になってもらい武道講習会を開くなど、市民の健康増進につながるような場を増やしたい。

こうした施策を実行するには行政の無駄を徹底的に排除し、経営感覚を持った行政組織へと返信させる必要がある。8月に

は新たな「総合計画」をまとめる。

——就任2日前に東日本大震災が発生した

幸い、津波などによる被害はほとんどなかったが、毎年6月上旬に開く「カツオまつり」は中止せざるを得なかった。会場となる魚市場の建物が老朽化し、余震が続けば安全上の問題があるためだ。今は福島原発トラブルの影響を心配している。海水浴シーズンに向けて水質検査を徹底し、風評被害が広がらないように努力したい。

——市長の前、35年の教員生活を送った。その経験をどう生かす

荒れた学校に赴任したこともあるが、結局は膝をつき合わせてとことん話し合うことが問題の解決につながった。規模は違うが市政も考え方は同じだ。市民の皆さんと会話を重ねながら、今優先して取り組むべき課題を見極めていきたい。

(千葉支局長 田辺 省二)